



2025
No.408 3 月号

News

全国整備工場の皆様へ
NGP組合員 200 拠点がお届けする
お役立ち情報

2025年3月19日発行
■発行責任者/佐藤幸雄 ■編集・制作/(株)プロトリアス
■発行/(株)NGP 東京都港区港南2-12-32 サウスポート品川4F TEL03(6705)1212

NGPブランドのさらなる発展を目指して、新たな表彰制度を創設

生産部門第1位は(株)空知オートパーツ、 販売部門第1位は(有)リサイクルガレージケーワンが受賞

NGPは、NGPブランドのさらなる普及拡大に貢献した組合員を評価することを目的として、出荷点数の多い組合員を表彰する「生産部門」、お客様への納品点数が多い組合員を表彰する「販売部門」の二つの

表彰制度を新たに創設しました。

2023年度の実績から、生産部門第1位は(株)空知オートパーツ（亀井洋社長、本社＝北海道赤平市）が、販売部門第1位は(有)リサイクルガレージケーワン（牛場健次社長、本

社＝千葉県船橋市）が受賞しました。

NGPは、より高品質なリユース部品を供給し続けていくため、今後も様々な取り組みを推進してまいります。

生産部門（出荷点数）1位

(株)空知オートパーツ（北海道）



小林信夫理事長（右）と(株)空知オートパーツ・亀井洋社長

(株)空知オートパーツ・亀井洋社長 受賞コメント

このたびは、このような栄えある表彰をいただき、誠にありがとうございます。当社では、

NGPが定める厳格な商品登録ルールを遵守し、安心してお客様にご利用いただける商品を生産することを心がけています。これが商品の生産・販売数の向上につながったと感じております。

北海道に拠点を置く当社では、本州であまり在庫されないブレーキパッドやタイヤなどの消耗品も、質の高いものは積極的に生産し提供しています。限られた在庫台数の中で、1台から可能な限り多くの部品を生産し、新品が手に入りにくい部品をリサイクル部品としてお届けすることで、お客様の愛車を長く使い続けられるようサポートしています。

「何事も楽しくなるまでやったら勝ち」。この言葉が、私たちの挑戦の原動力です。始めたばかりは上手いかわなくても、続けるうちに少しずつ慣れ、やがて楽しさを感じられるようになります。そして成長を実感し、どんどん楽しくなり、気付けば一流を目指したくなる。その過程が、好きなことを仕事にする幸せへとつながっています。

「楽しく仕事をする」ということを大事に、自分たちも楽しみながら、お客様にも笑顔になってもらえるような商品をこれからもお届けしていきます。

販売部門（納品点数）1位

(有)リサイクルガレージケーワン（千葉県）



(有)リサイクルガレージケーワン・牛場健次社長（左）

(有)リサイクルガレージケーワン・牛場健次社長 受賞コメント

昨年度のNGP総会から採り入れられました、売上に関する表彰の部品販売部門で栄えある最優秀賞を受賞することができました。これは1998年に創業当初すぐに入会したNGPの諸先輩方からの厳しく、時には人情な指導の賜物であります。また、20年以上続けるシステム委員会を含む、執行部活動で得た知識を基に社員

へのフィードバックを実施し、それを遂行してくれた社員の頑張り以外の何物でもありません。ほぼ同じ仕入先を持つ同業他社とどうやって自社の特色を出しつつ伸ばしていくかを考えた時に、営業の存在・価格設定・品揃えを重要事項と捉えて活動して参りました。

「営業の存在」電話で売り切って終わりではなく、トラブル時には駆けつける、リビルトのコアは回収に行く、新商品の説明に行く等の顔が見える営業活動を、現状6名体制で実施しています。

「価格設定」入会当初に設定した利益率を未だに変更していません。これが適正な利幅だと考えているのと、価格のみで獲得した得意先はまた直ぐに価格で他社に奪われると考えているからです。

「品揃え」中古部品は互換等を駆使して徹底的に探して納品率を上げる。また、リビルト等のアイテムは新商品を含めてしっかり理解し、得

意先にもその存在を伝えて活用してもらう。他の組合員さんは絶対にその存在を知らずに逃している売上有ると思います。

受注体制では総勢15名でフロント体制を構築しています。ペーパーレスFAXで見やすく迅速に対応、いち早くLINEでの受発注も採り入れお客様の利便性を高め、尚且つ社内での管理運用も効率化してきました。

こんな考え方と全社員の努力が功を奏し、お客様から選ばれる会社となり、この賞を受賞するほどの売上を得られていると考えております。

どちらかと言うと部品販売部門から成長してきましたが、そこで培ったノウハウと得意先からの信頼を基に、今では年間1万台の廃車も引き取れるほどの成長ができました。

これからは自分たちがそうされて来たように、このノウハウを次世代に引き継ぎつつ、更なる飛躍を目指していく所存でございます。

整備士不足が叫ばれる中、整備関係従業員数、整備要員数、整備士数いずれも増加

日本自動車整備振興会連合会（喜谷辰夫会長、日整連）はこのほど、2024年度の「自動車特定整備業実態調査」結果の概要を公表しました。今回の調査は2024年6月末時点のデータで、整備売上高は2023年7月1日から2024年6月末日までに決算が終了した事業実績となります。

それによると、総整備売上高は前年比5.9%・3,489億円増の6兆2,561億円と3年連続の増加となりました（表1）。業態別では、専業整備工場が同4.4%・952億円増の2兆2,483億円、兼業工場が同11.8%・815億円増の7,716億円、ディーラーが同5.4%・1,515億円増の2兆9,743億円、自家整備工場が同8.6%・207億円増の2,619億円でした（グラフ1）。

作業内容別で全業態合計の売上高では、自家用車が対象の「2年車検整備」が同1.5%・269億円増の1兆8,581億円、「1年車検整備」が同5.9%・380億円増の6,819億円、「事故整備」は9.6%・979億円増の1兆1,198億円、「その他整備」が同8.8%・1,724億円増の2兆1,395億円となりました。

今回調査時点の事業場数（グラフ2）は、前年度比535事業場（0.6%）増の92,384事業場で3年連続の増加となりました。一方、指定工場数は同158事業場（0.5%）減の29,932事業場でした。

整備関係従業員数は562,869人で、前年度より8,562人（1.5%）増加しています。整備要員数は402,025人で、前年度より2,255人（0.6%）増加しており、そのうち女性は19,335人で142人増加しています。また、女性整備士数は10,567人で86人増となりました。

整備要員の平均年齢（自家を除く）は47.4歳で、前年度と比較すると0.2歳上昇しました。

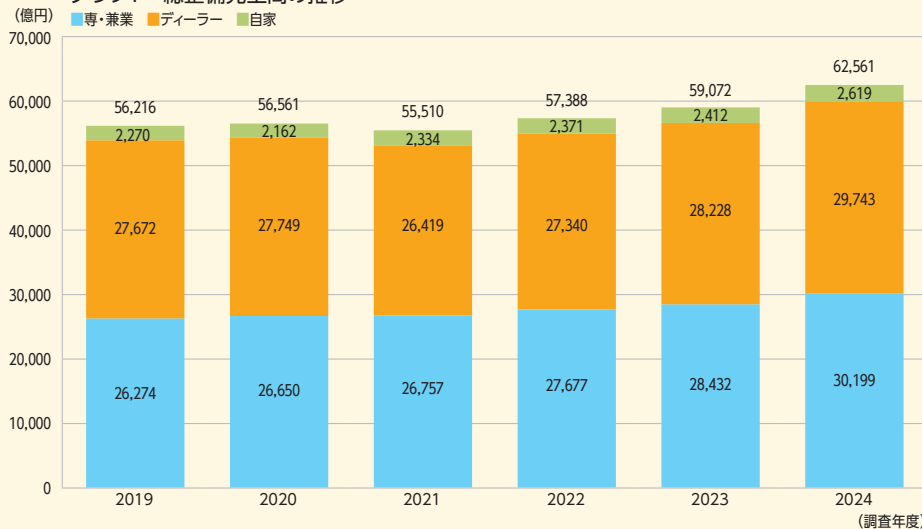
なお本調査の詳細や考察については、日整連が4月に発行を予定している「自動車整備白書」に掲載される予定です。

表1 2024年度 自動車特定整備業実態調査結果

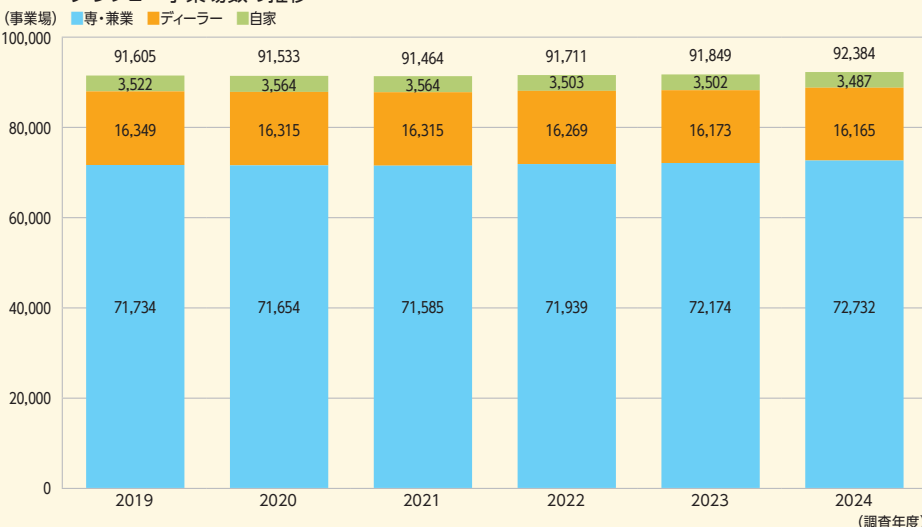
(単位: 億円)

	車検整備			定期点検整備				事故整備	その他整備	合計		
	2年	1年	小計	12ヵ月	6ヵ月	3ヵ月	小計					
専・兼業	売上高	9,754	4,624	14,378	681	166	414	1,261	5,118	9,442	30,199	
	増減額	+771	+151	+922	+36	+2	-29	+9	+394	+442	+1,767	
	増減率	+8.6%	+3.4%	+6.9%	+5.6%	+1.2%	-6.5%	+0.7%	+8.3%	+4.9%	+6.2%	
	専業	売上高	6,722	3,822	10,544	450	112	360	922	4,092	6,925	22,483
		増減額	+306	+11	+317	-2	-17	-28	-47	+238	+444	+952
	兼業	売上高	3,032	802	3,834	231	54	54	339	1,026	2,517	7,716
増減額		+465	+140	+605	+38	+19	-1	+56	+156	-2	+815	
増減率	+18.1%	+21.1%	+18.7%	+19.7%	+54.3%	-1.8%	+19.8%	-17.9%	-0.1%	+11.8%		
ディーラー	売上高	8,060	1,844	9,904	2,379	446	297	3,122	5,592	11,125	29,743	
	増減額	-493	+207	-286	-49	-6	+99	+44	+511	+1,246	+1,515	
増減率	-5.8%	+12.6%	-2.8%	-2.0%	-1.3%	+50.0%	+1.4%	+10.1%	+12.6%	+5.4%		
自家	売上高	767	351	1,118	131	14	40	185	488	828	2,619	
	増減額	+269	+380	+649	+60	-24	+101	+137	+979	+1,724	+3,489	
増減率	+1.5%	+5.9%	+2.6%	+1.9%	-3.7%	+15.5%	+3.1%	+9.6%	+8.8%	+5.9%		

グラフ1 総整備売上高の推移



グラフ2 事業場数の推移



岡山大学との産学連携で、植生回復活動や不法投棄現場を見渡す展望台の環境整備を行う

NGP協同組合は1月30・31日の2日間、香川県豊島で環境保全・再生活動を実施しました。第17回目となる今回は、前回に続き「岡山大学大学院環境生命科学研究科の嶋一徹教授との産学連携による豊島植生回復活動」*1と「オリーブ植樹地へのイノシシ除け設置」を行いました。

岡山大学との産学連携による植生回復活動

今回は、産業廃棄物不法投棄現場を見渡すことができる展望台を整備しました。見学に訪れる人たちが転倒しないように足場の小石を取り除き、不法投棄現場の全体を見渡せるように周りの雑草を除去しました。

また、岡山大学が豊島の植生回復の研究をしている区画で、枯れ松を伐採しました。枯れ松を放置すると虫が発生して植生を荒らしてしまうため、チェーンソーで伐倒してから外へ運び出しました。

嶋教授は、「展望台を整備して環境教育の場にしたいと考えています。そのためには見学に来た方々が転ばないような足場の整備や、見晴らしを良くするための雑草の除去が必要です。また、豊島の自然を取り戻すために、枯れ松を伐倒して幼虫の発生を防ぎ、より多くの種が成長することを目指していきます」と、活動の目的について説明しています。

「柚の浜」オリーブ植樹

植樹したオリーブを守るために、イノシシ除けの柵を設置しました。柵の下から潜れないように油圧ショベルで段差を作り、支柱を差し込みます。冷たい潮風が吹く中での作業となりましたが、防寒対策をしっかり整え、作業を終えることができました。

豊島で起きた不法投棄事件による環境被害は、まだ完全に回復できていません*2。NGPは今後も瀬戸内オリーブ基金*3、岡山大学と協力して、「豊島事件」の悲劇を二度と繰り返さないために環境保全・再生活動と3Rの大切さを後世に伝える活動に取り組んでまいります。

*3 瀬戸内オリーブ基金：自動車リサイクル法制定の契機ともなった不法投棄事件が起こった香川県豊島の環境保全・再生活動に取り組むNPO法人 (<http://www.olive-foundation.org/>)



展望台の雑草を除去



展望台まで続く階段の足場を整備



枯れ松をチェーンソーで伐倒する岡山大学・嶋一徹教授



伐倒した枯れ松を切り分けて運び出す



オリーブを守るためにイノシシ除けの柵を設置



NGP 今月のCO₂削減量



リサイクル部品利用に伴うCO₂削減量

令和7年1月: **2,000t**

※自動車リサイクル部品産学共同研究会が、「自動車リサイクル部品による環境負荷低減効果の研究」の結果をもとに、NGPが販売したリユース部品の90品目(左右ある部品を含むと115品目)と、リビルト部品の3部品を対象に算出した数値です。



リターナブル梱包材利用に伴うCO₂削減量

令和7年1月: **0.7t**

※リターナブル梱包材の利用に伴う削減効果はNGP協同組合独自のCO₂排出量削減の取り組みです。段ボールに代えて、専用梱包材を繰り返し使用することを前提に削減効果を算出しております。

*1 過去の「国立公園原状回復活動(岡山大学との植生回復活動)」について
https://www.ngp.gr.jp/sdgs/teshima/recovery_univ.php

*2 「豊島産廃問題の歴史」について
<https://www.ngp.gr.jp/sdgs/teshima/history.php>

NGP組合員 かわら版

サーキュラーエコノミーを推進

広島大学、名古屋大学、立命館大学に対して 自動車リサイクル工場見学会を実施

NGP協同組合は1月17日、広島大学大学院先進理工系科学研究科の布施正暁准教授、名古屋大学工学部環境土木・建築学科の谷川寛樹教授、立命館大学工学部機械工学科の山末英嗣教授に向けて、NGP組合員企業である(株)エビス（胡定晃社長、本社＝広島県安芸郡）で自動車リサイクル工場見学会を実施しました。

各校では、自動車の長期使用による環

境負荷について研究をしています。このたび、自動車リサイクルの流れを見学して今後の研究に活かしたいとの要望を受けて、工場見学及び意見交換会を開催することになりました。

工場見学会では、(株)エビス及びNGPの環境への取り組みについて紹介した後、自動車リサイクル工程を見学しました。その後の意見交換では、樹脂やガラス素

材の再資源化や車の素材の変化など、自動車と自動車リサイクルの今後について話し合いました。

サーキュラーエコノミーの実現を目指すNGPにとって、自動車のライフサイクルや長期利用に関する研究を行う大学と自動車リサイクルの現場を見学し、意見交換ができたことは、非常に意義深い機会となりました。



NGP 理事・役員、明治神宮を参拝

循環型社会への貢献と業界全体の活性化を祈願

小林信夫理事長をはじめとしたNGP協同組合理事及び(株)NGP役員は1月23日、明治神宮（東京都渋谷区）に参拝し、毎年恒例の新年祈願を行いました。

小林理事長は「サーキュラーエコノミーの実現に向けて循環型社会への転換が求められる今、自動車リサイクル業界には大きな責任があると感じています。NGPはお客様をはじめとしたステークホ

ルダーの皆様のご協力のもと、自動車の適正なりサイクルを進め、リユース部品を通じてこの転換に貢献してまいります。2025年、NGPはより高品質な部品をお届けすることを追求し、自動車リサイクルを通じて自動車業界の発展に寄与していきたいと考えています」と、新年の抱負を示しています。



組合員情報変更

支部	会社名	変更内容	変更後	変更日
北関東	有限会社黒埼部品	会社代表	代表取締役 大谷 真人	2025年1月17日

NGP日本自動車リサイクル事業協同組合事務局

〒108-0075 東京都港区港南2-12-32 サウスポート品川4F
TEL:03-6705-1208 FAX:03-6705-1209
<https://www.ngp.gr.jp/>

株式会社NGP

〒108-0075 東京都港区港南2-12-32 サウスポート品川4F
TEL:03-6705-1212 FAX:03-6705-1201
<https://www.ngp.co.jp/>